

安産の神 柳 稲荷社と夫婦銀杏



柳の稲荷社は、この村に難産の思いがないことから、安産の守護神として柳地区のみではなく、広く近郊からも人々が祈願に來たといわれています。創立は、宝暦5（1755）年といわれますが、たび重なる火災や台風により大きな被害を受けました。現在の社殿は昭和61年に地域の人々の願いと協力により再建されたものです。安産の祈願には、稲荷社の白狐の置物を拝借して帰り、出産後に祈願のお礼に拝借した白狐の置物一對と新しく買い求めた一對を奉納する習慣があったと伝えられています。



町指定天然記念物 夫婦銀杏
昭和 47 年 10 月 3 日指定

境内にある2本の銀杏が夫婦銀杏と呼ばれています。社殿の東側が男銀杏で、胸高周囲5.7mあります。西側の女銀杏は胸高4.3mです。樹高はどちらも15mほどです。

昔から柳地区には重いお産がないと言われ、この地区にある稲荷社は安産にご利益があると近郊からも信仰されてきました。そして女銀杏には立派な木根が見られることから、銀杏の樹皮を削って飲むと、母乳がよく出ると伝わっています。かつては女銀杏に毎年たくさんの実（銀杏）が付いたようです。



ムクロジの実

ムクロジ
町指定天然記念物
昭和 58 年 6 月 2 日指定

ムクロジ

現在の樹高は15m、胸高直径は80cmに達します。本種は暖地性の落葉広葉樹の高木ですが、植栽された時期は不明です。秋に熟す果実は、直径2cm程でその果皮はサポニンを含み泡立つことから、石鹸の代用として使われていたこともあります。また、種子は黒くて堅いので、羽根つきの追い羽根の玉に使われてきました。なお、本社の果実は、他所のものより大きいです。